2023 年度点検・評価シート

・**評価の視点**【基礎要件●】は法令要件、その他基礎的要件の充足状況を判断する指針
【評価要件○】は基礎要件以外で、大学基準協会が大学基準に照らし定めた指針

・評価の視点に“※”が付されている場合は、大学基礎データ、基礎要件確認シート及び別途収集する根拠資料により、点検・評価し、適切性を判断してください。

・★のある欄は、必須記述欄です。ただし、該当なしと判断した場合は「なし」と記入してください。

・◆のある欄は、各点検・評価項目の内容について、問題点を記入してください。（ない場合は「なし」と記入）

I【現状】**原則 2023 年 5 月 1 日現在の状況で回答してください。**

対象部局	50 東松山キャンパス運営委員会	責任者	勝又　宏	
基準 4	教育課程・学習成果		自己評価	B

★基準 4 の自己評価の理由を簡潔に解説してください。

≪回答≫

当部局は全学共通科目等について大学の学位授与方針をふまえた到達目標(AG)を設定するとともに、これらを実現するための教育課程の編成・実施方針(CP)も整備、大学ホームページ等で公表している。教育課程においては、専門教育の基礎となる知識・技能を習得させるための入門・展望的科目、学習の順次性に配慮した初年次教育科目、学生の社会的・職業的自立を図るためのキャリア教育科目などを幅広く配置している。また、学生の学習を活性化するために、様々な学生参加型科目を開講し、manaba・Google Drive をはじめとする学習支援ツールを積極活用している。これら学習支援ツールは、COVID-19 への対応に際しても威力を発揮した。ただし、学習成果の測定結果の活用等については、部局としての事例はなく、昨年度、改善計画を策定しており取り組みを開始した段階である。

点検・評価項目(1)	4-1 授与する学位ごとに、学位授与方針を定め、公表しているか。

★<到達目標 >（記入してください。）

変更　有(　)　無(○)

全学共通科目等の到達目標（Achievement Goals）

全学共通科目、外国語科目（英語）、外国語科目（英語以外）、保健体育科目は、大東文化大学「卒業認定・学位授与の方針」をふまえ、以下のような到達目標（AG）を設定する。

1. 豊かな教養と専門的知識およびそれを活用する技能
（1）専門教育の基礎となる人文・社会・自然・情報に関する知識を有している。
（2）外国語において、聞く、読む、話す、書くための基礎的な能力を有している。
（3）生涯にわたって生活の基本となる健康管理の基礎知識と、実践能力を有している。
2. 他者との共同による問題発見・解決能力と、それを支える思考・判断・表現力
（1）現代社会の現状と課題を理解し、その解決策を自己と関連づけて探求するための思考（判断）力や表現力を有している。
3. 自律的学習者として学び続け、社会に貢献する意欲と能力、社会の担い手としての使命感
（1）豊かな教養に基づき、社会の発展に貢献する意欲を有している。
4. 本学の建学の精神や本学の理念に対する理解
（1）異文化への共感的な理解力と、多文化共生社会の担い手として諸課題の解決に貢献しようとする意欲を有している。

評価の視点 1 【基礎要件●】	上記の方針は、修得すべき知識、技能、態度等の学修成果が明示され授与する学位にふさわしい内容となっている。
評価の視点 2 ※ 【基礎要件●】	上記の方針の公表は、媒体や表現の工夫等により、情報の得やすさや理解しやすさに配慮している。 根拠資料→A1-6-1Web サイト（大東文化大学の基本方針）

◆**学位授与方針の内容や、公表の仕方について問題点があれば記述してください。**

≪回答≫

なし

点検・評価項目(2)	4-2 授与する学位ごとに、教育課程の編成・実施方針を定め、公表しているか。

<教育課程の編成・実施方針>

変更　有(　)　無(○)

＜全学共通科目＞

全学共通科目は、豊かな教養と高い倫理性を備えた人間を育成することを目指して、本学に所属する教員が総力を結集し、幅広い学問分野を基礎とした多様な内容の授業を提供する。

１．教育内容

（1）全学共通科目は、人類が長い歴史を通じて探求し積み上げてきた学問の体系と方法を教授するとともに、健康な心身を育むための「基本科目」と、人類の社会と生活に密接に関わる課題を通して現代世界への問題意識と異文化への理解、総合的な判断力を育むための「課題（テーマ）科目」に大別される。

（2）「基本科目」は、A 系：人間と文化（人文系）、B 系：社会と生活（社会系）、C 系：自然と環境（自然系）、D 系：健康とスポーツ（保健体育系）の４系統に属する科目群から構成される。これらの履修により、どの学部・学科で学ぶ学生も、学問研究を支える基礎的な知識と技能、高い教養と幅広い視野が得られる。

（3）「課題（テーマ）科目」は、第１群（地域・国家・民族の考察）、第２群（女性・子ども・老人への視点）、第３群（人権・民主主義・平和を考える）、第４群（現代社会の諸問題）、第５群（異文化・世界にふれる）、第６群（自己・人間をみつめる）、第７群（キャリアデザイン）、第８群（全学共通特殊講義）の計８群から構成される。これらの履修により、現代社会で生活する中で不可避の諸課題を、学問の枠にとらわれずに追及・深化できるようになり、また専門教育への動機づけが得られる。

２．教育方法

全学共通科目はその性質上、内容が多岐にわたるため、各教員が科目の特性に応じて一斉学習形式の講義のみならず、演習や実習、アクティブ・ラーニングなどの教育方法を導入する。

３．評価方法

科目の特性に応じて、提出課題、アチーブメントテスト、プレゼンテーション等の結果を適切に評価し、一人ひとりの伸長度を加味した上で総合的に評価する。

＜保健体育科目＞

講義科目については、健全で有意義な学生生活を送るための基本となる健康管理について、その基礎的な知識と実践能力の習得を目指す。実技科目、野外実習については、選択した種目の技術、ルールを習得するとともに、他の学生と円滑にコミュニケーションを図ることを目的とする。

そのために、保健体育科目の教育課程は次のような特色を持つ。

１．教育内容

（1）講義科目（健康スポーツ科学）を通して、学生が健康科学についての基礎的な知識を得て、各人の健康管理や健康水準の維持・増進に役立つ知識・技能の修得を目指す。

（2）実技科目（総合体育、体育実技）を通して、学生がストレスケアとしても有効な身体活動を定期的に実践し、自らの健康水準の維持・増進を目指す。

（3）野外実習（スキー、スクーバダイビング）を学外での合宿形式の集中授業として実施し、学部・学科の壁を超えた受講生間の深い人間関係の構築を目指す。

２．教育方法

（1）講義系科目においては、アクティブ・ラーニングを取り入れた授業を展開する。

（2）実技科目においては、スポーツ、身体活動を展開するとともに、学生同士の学び合いの機会を提供する。

（3）野外実習においては、各種目に関する知識、技能を習得させるとともに、活動の場となる自然環境への配慮について考える機会を提供する。

３．評価方法

健康・スポーツに関する各自の実践を勘案し、運動技能の現状、並びにその伸長度、運動技能に関わる知識、表現力等を測定し、総合的に到達度を評価する。

＜外国語科目（英語）＞

英語教育を通して、アカデミック・スキルズを修得し、さらに現在のグローバル化した世界情勢を踏まえながら、異文化理解能力、批判的思考力（クリティカル・シンキング）、および自国の文化をも相対的に見ることのできる視点の醸成を目的とする。同時に自分の意見を発信し、これによって能動的な多文化共生社会の担い手となることを目指す。

そのため、以下に述べるような特色を持つ英語教育課程を編成・実施する。

１．教育内容

（1）英語科目は、各学部各学科にこれを設置し、各学科および各学年の特性に合わせた英語運用能力の育成を図

る。

(2) 英語の四技能（「聞く」・「読む」・「話す」・「書く」）の育成を通して、後の各自の学びや専門教育につながるアカデミック・スキルズの修得を目指す講義科目を開設する。

(3) グローバルな視野で異文化を理解し、多文化共生社会を推進する能力を養成するとともに、批判的思考力（クリティカル・シンキング）を通じて自分の意見を論理的に述べる能力を養成することを目的とする講義内容を展開する。

2．教育方法

(1) 必修科目では主に基礎的・総合的な英語運用能力（聞く・読む・話す・書く）の向上とアカデミック・スキルズの修得に、また選択科目では目的やレベルに応じた英語運用能力（語学検定試験対策や時事英語など）の向上に力点を置いた指導を行う。

(2) 海外留学および語学研修は、その機会をさまざまに設け、これを奨励するとともに、事前事後の学習指導を綿密に実施し、学習者がその機会をより有意義なものにできるよう支援する。

(3) コンピューター支援言語学習（CALL）やｅラーニングなどコンピューターを利用した教育、国際色あふれる外国人講師による授業などを設置して、一人ひとりの到達度に応じた学習の場、国際的な知見を養うためのコミュニケーション実践の場を提供する。

(4) 授業のためのクラス編成は、少人数クラス及び習熟度別クラスを原則とし、双方向的な学習環境の整備に留意する。

3．評価方法

科目の特性に応じて、提出課題、アチーブメントテスト、プレゼンテーション等の結果を適切に評価し、一人ひとりの伸長度を加味した上で総合的に評価する。

＜外国語科目（英語以外）＞

ドイツ語、フランス語、中国語、イタリア語、スペイン語、ポルトガル語、ロシア語、古典ギリシャ語、ラテン語、タイ語、インドネシア語、コリア語の計 12 言語の多彩な外国語の授業を展開し、グローバル化が進む社会生活の中で一層重要度を増す外国語の運用や異文化理解の能力を有する人材を養成することを目的とし、以下のような特色を持った外国語教育課程を編成・実施する。

1．教育内容

(1) 多様なクラス編成を通じて、聞く・読む・話す・書くという外国語の総合的な運用能力を高めるとともに、学生と教員、学生同士の対話の機会を多く設け、自ら思考し、意見を述べる姿勢を培う講義科目を設定する。

(2) 外国語の修得を、学生が自己と向き合う成長の過程と位置づけ、自国の言語や文化を客観的に見直す機会とする。

2．教育方法

(1) 外国語科目においては、アクティブ・ラーニングを取り入れた教育方法を採用する。

(2) 少人数のクラス編成により、学生と教員、あるいは学生同士が対話する機会を多く設ける。

(3) 基幹となるドイツ語、フランス語、中国語において、「強化クラス（週三クラス）」を設置し、効果的かつ集中的に外国語を教授する。

(4) コンピューター支援言語学習（CALL）を積極的に導入し、音声や画像などマルチメディア教材を介して、個々の理解や達成度に合わせた教育を行う。

(5) 海外留学および研修の機会を設けるとともに、語学検定試験の受験を奨励することで、外国語学習の意欲を高める。

(6) 語学検定試験受験を奨励し、その合格級・取得点数等を勘案する。

3．評価方法

科目の特性に応じて、提出課題、アチーブメントテスト、プレゼンテーション等の結果を適切に評価し、一人ひとりの伸長度を加味した上で総合的に評価する。

評価の視点１ 【基礎要件●】	上記の方針は、教育課程の体系、教育内容、教育課程を構成する授業科目区分、授業形態など、教育についての基本的な考え方が明確にしめされている。
評価の視点２ 【基礎要件●】	上記の方針は、到達目標に整合している。

評価の視点３※ 【基礎要件●】	上記の方針の公表は、媒体や表現の工夫等により、情報の得やすさや理解しやすさに配慮している。 根拠資料→A1-6-1Web サイト（大東文化大学の基本方針）

★※AG と CP の連関について（AG と CP の各項目の番号を矢印で紐づけてください。）

① 全学共通科目 ： AG1.(1) →全共 CP1.(1)～(3), CP2　AG2.(1) →全共 CP1.(1)(3), CP2
AG3.(1) →全共 CP1.(1)～(3), CP2　AG4.(1) →全共 CP1.(1)(3) , CP2

② 保健体育科目 ： AG1.(3) →保体 CP1.(1)～(3), CP2.(1)～(3)　AG2.(1) →保体 CP1.(1), CP2.(1)
AG3.(1) →保体 CP1.(1) ,CP2.(1)

③ 外国語科目(英語) ： AG1.(2) →英語 CP1.(1)(2) ,CP2.(1)　AG2.(1) →英語 CP1.(1)(3)
AG3.(1) →英語 CP1.(1)～(3) ,CP2.(1)　AG4.(1) →英語 CP1.(3), CP2.(2)(3)

④ 外国語科目(英語以外)： AG1.(2)→英語以外 CP1.(1)(2) ,CP2.(2)(4)　AG2.(1) →英語以外 CP1.(1)
AG3.(1)→英語以外 CP1.(1)(2),CP2.(4)(5)　AG4.(1) →英語以外 CP1.(2) ， CP2.(3)(5)(6)

★項目 (2) 4-2①～④別 AG１から AG４について、それぞれの内容がどのように CP の内容に反映されているのか（あるいは教育課程のどこで具現化されるのか）、その連関について説明してください。
以下の事例を参考に記述してください。※事例は過去のものです。なおここでは DP１のみ抜粋ですが続きがあります。
・ＤＰ「１．知識・技能」（１）に明示した、「日本の文学と言語・文化に関する基本的な知識」「専門的な知見」と、ＤＰ「１．知識・技能」（２）の「文献や資料を的確に読解する」については、ＣＰ「１．教育内容」（１）で、『「日本文学史概説」「日本語学概説」などで体系的・通史的な知識や素養を身につけ』とされ、ＣＰ「１．教育内容」（２）で『「日本文学講読」「日本語学講読」や各分野の「特殊講義」などで、特定の主題に関する専門的な知識を身につける。』と明示されている。

≪回答≫
AG1(1)「専門教育の基礎となる人文・社会・自然・情報に関する知識」については、全学共通科目の基本科目 A 系(人文系)、B 系(社会系)、C 系(自然系)で、AG1(2)「外国語における、聞く、読む、話す、書くための基礎的な能力」については、外国語科目(英語)および(英語以外)で、AG1(3)「生涯にわたって生活の基本となる健康管理の基礎知識と実践能力」については、基礎知識は保健体育科目の講義科目(健康スポーツ科学)で、実践能力は実技科目(総合体育， 体育実技)および野外実習(スキー， スクーバダイビング)で、AG2(1)「現代社会の現状と課題を理解し、その解決策を自己と関連づけて探求するための思考(判断)力や表現力」については、全学共通科目課題（テーマ）科目、外国語科目(英語)および(英語以外)での言語運用能力(読む，聞く，書く，話す)の訓練で、AG3(1)「豊かな教養に基づき、社会の発展に貢献する意欲」については、全学共通科目課題（テーマ）科目第７群(キャリアデザイン)他で、AG4(1)「異文化への共感的な理解力と、多文化共生社会の担い手として諸課題の解決に貢献しようとする意欲」については、全学共通科目課題（テーマ）科目、外国語科目(英語)および(英語以外)でそれぞれ具現化している。

◆教育課程の編成・実施方針の内容や、公表の仕方について問題点があれば記述してください。

≪回答≫
なし

点検・評価項目 (3)	**4-3 教育課程の編成・実施方針に基づき、各学位課程にふさわしい授業科目を開設し、教育課程を体系的に編成しているか。**
評価の視点１※	教育課程の編成・実施方針と教育課程の整合性を図っている。根拠資料→A1-1＊学則、A4-43Web サイト シラバス
評価の視点２※	学習の順次性に配慮した各授業科目の年次・学期配当をしている。根拠資料→B4-68Web サイト カリキュラムツリー
評価の視点３※	専門分野の学問体系を考慮した教育課程を編成している。根拠資料→A4-12Web サイト カリキュラムマップ
評価の視点４※	学習成果を修得させるために適切な授業期間を設定している。 根拠資料→A1-1＊学則、B1-10-1~8　2023 年度 各学部履修の手引き
評価の視点５※	単位制度の趣旨に沿った単位の設定をしている。根拠資料→A1-1＊学則、基礎要件確認シート９
評価の視点６※	教育課程を編成する措置として、個々の授業科目の内容及び方法は適切に設定されている。 根拠資料→A4-13Web サイト 科目ナンバリング、A4-43Web サイト シラバス、
評価の視点７※	編成方針に基づき、授業科目を必修、選択等位置づけており履修の手引きに掲載している。 根拠資料→B1-10-1~8　2023 年度 各学部履修の手引き
評価の視点８	初年次教育・高大接続に配慮した授業として、「プレイスメントテスト」などによるクラス編成や、基礎的な科目の内容を深める授業を実施している。

★項目 (3) 4-3①初年次教育・高大接続に配慮した授業について、根拠資料（該当するシラバス、履修の手引き該当ページなど）を用いて、概要を解説してください。

≪回答≫ 初年次教育・高大接続関連の授業については、各学部学科の基礎教育科目群に配置されていることが多いが、全学共通科目としても一定数開講されている。例としては、文章読解力、レポートの書き方、論理思考能力といった、大学生としての基礎的スキルの育成をはかる、課題テーマ科目 6 群「自己・人間をみつめる」の(文章の書き方 AB)(大学生のための文章表現入門 AB)(論理力トレーニング AB)などが挙げられる。	≪根拠資料≫ **50-C4-1：大学生のための文章表現入門、文章の書き方、論理力トレーニング シラバス**

評価の視点９※	教養教育と専門教育を適切に配置している。根拠資料→B1-10-1~8　2023 年度 各学部履修の手引き
評価の視点１０	学生の社会的、職業的自立を図るために必要な能力を育成する教育を実施している。

★項目 (3) 4-3②社会的、職業的自立を図るために必要な能力の育成として実施しているキャリア教育について、根拠資料（該当するシラバス、教育プログラムの場合はその制度が分かる資料など）を用いて回答してください。

≪回答≫ キャリア教育に関わる授業科目は、①職業に就くことに対する意識の醸成、延いては自身を見つめることを目的とするもの、②キャリア形成上有効な資格・検定等に即した実力養成を目的とするもの、③未来の就職先・雇用者の一つとしての企業自体について、人的資源管理の方法、あるいは経営戦略等を通して学ぶことを目的とするものと、大別して３つの側面から構成されている。全学共通科目におけるキャリア教育の中心をなす「キャリアデザイン AB」では、「(キャリアと教育))において上記①を、「(しごと・能力・ライフデザイン)」の一部で上記③をカバーしている。	≪根拠資料≫ **50-C4-2：キャリアと教育、しごと・能力・ライフデザイン シラバス**

★項目 (3) 4-3③キャリア教育（インターンシップ、キャリア教育科目関連）を展開していくための運営体制について、東松山キャンパス運営委員会はどのように係っているのか、キャリアセンターとの関係や、東松山キャンパス運営委員会の役割なども含めて回答してください。（どのように運営されているのか、キャリア教育を担う責任主体はどこなのかなど）

≪回答≫ 全学共通科目を構成する３本の柱のうちの「課題(テーマ)科目における「キャリアデザイン」として、「キャリアデザイン（キャリアと教育)」、「キャリアデザイン（しごと・能力・ライフデザイン)」、「キャリアデザイン（インターンシップ)」が開講されている。これらは東松山キャンパス運営委員会を構成する教務部会のうち全学共通科目分科会におけるキャリア教育分野に所属する教員（内１名はキャリアセンター所長）により担当されている。この他、同じく全学共通科目分科会における社会学分野に所属する教員により、「キャリアの社会学」という、人と仕事、働くことについて根本的な思考を促す科目が開講されている。全学共通科目におけるキャリア教育の責任主体は、東松山キャンパス運営委員会を構成する教務部会のうちの全学共通科目分科会におけるキャリア教育分野に所属する教員であり、キャリアセンターはこれらのキャリア支援科目の受講を推奨している。	**≪根拠資料≫** **50-C4-3：2023 年度全学対応所属教員一覧**

★項目 (3) 4-3④全学共通科目のカリキュラム編成、授業科目の配置の特性について解説してください。

≪回答≫

全学共通科目は、全学部・学科共通の履修科目で、「基本科目」、「課題（テーマ）科目」、「発展科目」という３つの科目から成り立っている。

「基本科目」は、A 系　人間と文化（人文系)、B 系　社会と生活（社会系)、C 系　自然と環境（自然系)、D 系　健康とスポーツ（保健体育系）の４つの系から成り、各系はそれぞれ以下の科目群により構成されている。A 系　人間と文化（人文系)：哲学／文学／論理学／倫理学／宗教学／歴史学／考古学／文化史／芸術学／地理学／言語学、B 系　社会と生活（社会系)：法学／社会学／政治学／経済学／心理学／教育学／民俗学／文化人類学、C 系　自然と環境（自然系)：数学／地学／生物学／生態学／現代科学／情報科学／自然科学、D 系　健康とスポーツ（保健体育系)：総合体育／健康スポーツ科学／体育実技／野外実習。基本科目は学問のエッセンスであり、いずれの学科にも共通して必要な基礎知識を得るために必要な科目群である。

「課題(テーマ)科目」は、８つの群から成り、社会や生活と密接に関わるテーマについて学問の枠にとらわれずに考えることを目的としている。第１群　地域・国家・民族の考察、第２群　女性・子ども・老人への視点、第３群　人権・民主主義・平和を考える、第４群　現代社会の諸問題、第５群　異文化・世界にふれる、第６群　自己・人間をみつめる、第７群　キャリアデザイン、第８群　全学共通特殊講義から構成されているが、これらは講義だけでなくフィールドワーク（一部のみ）を採用していることが特色である。

「発展科目」は、基本科目の特定分野について発展的に学ぶことを目的としている。日本史概論／西洋史概論／東洋史概論／日本の人文地理／世界の人文地理／日本の自然地理／世界の自然地理／日本地誌概論／世界地誌概論／日本国憲法／法学概論／情報処理／哲学概論／倫理学概論／心理学概論／社会病理の諸科目から構成されている。他方で、全学共通科目はほとんどが選択科目

であるため、時間割上空き時間に履修する等効率性のみを重視すれば体系性のない科目選択につながり、豊かな教養という全学共通科目を学ぶことによる到達目標と齟齬を生じることが懸念される。	
◆授業科目の開設や、教育課程の体系的な編成について問題点があれば記述してください。	
≪回答≫ なし	
点検・評価項目(4)	**4-4 学生の学習を活性化し、効果的に教育を行うための様々な措置を講じているか。**
評価の視点１※	シラバスの内容（到達目標・学修成果の指標・授業内容及び方法・授業計画・授業準備のための指示・成績評価方法及び基準等の明示）に基づいた授業を実施し、整合性が図れている。根拠資料→A4-43Web サイト シラバス、B6-21-1「学生による授業認識アンケート」
評価の視点２※	シラバスの記載内容の第三者チェックの実施結果を教授会で報告、検証している。 根拠資料→B4-40 シラバスチェック実施報告、B4-42 シラバスチェック体制
評価の視点３	学生の主体的参加を促す授業形態、授業内容及び授業方法を取り入れている。
★項目(4) 4-4①学生の主体的参加を促す授業について、以下(1)(2)に該当する事例を根拠資料（該当するシラバス、履修の手引き該当ページなど）を用いて解説してください。	
(1)主体的な学び（演習、実習、フィールドワークなど）の事例	
≪回答≫ 2023 年度における、スポーツ・健康科学部健康科学科島井誠司講師が担当する課題（テーマ）科目の講義科目「全学共通特殊講義（自然観察フィールドワーク AB)」は、野外自然観察の方法について基礎的な知識・技能を身に付けるため、実際に野外に出て学び、実験室でまとめながら学習し、身近な自然に対する理解を深める、自然の見方の基本として「植物」を取り上げ、大学周辺での野外実習と室内作業で、身近に接する多くの植物について標本の作製や種名を知ることを心がける実習である。同じく、スポーツ・健康科学部スポーツ科学科田中博史教授が担当する D 系健康とスポーツ（保健体育系）の実習科目「野外実習（スクーバーダイビング AB)」は、生涯にわたって，健康・体力の保持増進に役立てることができるスクーバダイビングの技術及び理論を習得する、授業の形態は３泊４日で伊豆の土肥（とい）にて合宿を行うが、合宿授業を通して多くの友人と接し絆を深め学生生活を一層充実させることを目的とする実習である。	≪根拠資料≫ **50-C4-4：自然観察フィールドワーク、スクーバーダイビング シラバス**
(2)インタラクティブ（双方向）な授業展開のための少人数授業の事例	
≪回答≫ 2023 年度における、スポーツ・健康科学部健康科学科蕪木智子教授が担当する D 系健康とスポーツ（保健体育系）の講義科目「健康スポーツ科学(心身の健康と食 AB)」では、講義形式を基本とするが、一部映画視聴や調理実習およびグループワークを行う。調理実習を含むため人数制限を設けており、履修希望者数超過の際は抽選となることがシラバスに明記されている。	≪根拠資料≫ **50-C4-5：心身の健康と食 シラバス**
(3)教員・学生間や学生同士のコミュニケーション機会の確保の事例	
≪回答≫ 2023 年度における、国際関係学部国際関係学科細田咲江教授が担当する課題（テーマ）科目の講義科目「キャリアデザイン(キャリアと教育)」では、講義とディスカッションを取り入れた授業（Input Output の相互授業）であり、他者へ自分の考えを伝えるためのコミュニケーションワークとして、出題されたテーマに基づいたグループディスカッションを毎回行うことがシラバスに明記されている。	≪根拠資料≫ **50-C4-6：キャリアと教育 シラバス**
(4)授業方法として、グループ活動の活用の事例	
≪回答≫ 2023 年度における、社会学部社会学科神部恭久准教授が担当する A 系人間と文化（人文系）の講義科目「芸術学(作品鑑賞とその技法)」では、グループワーク、ディスカッションなど受動的でない学習を積極的に取り入れ、近隣の美術館での実習を行い、鑑賞と批評を体験する。自らの批評を発表するプレゼンテーションの機会を設け、manaba を活用した質問やアンケートも積極的に取り入れることがシラバスに明記されている。	≪根拠資料≫ **50-C4-7：作品鑑賞とその技法 シラバス**
評価の視点４	学習の進捗と学生の理解度の確認
★項目(4) 4-4②授業を行ううえで、学習の進捗と受講する学生の理解度の確認をするために、当該部局としてどのような措置を講じているか、回答してください。	

≪回答≫

2018 年度から授業支援システム manaba(マナバ)を全学的に導入している。本システムは、教員が授業を運営していくに際し、講義資料配布、レポート提出管理、小テスト、出席管理などに有用である。本システムはあくまで授業運営を補完するためのものである。(2020 年度に端を発し現在まで継続している新型コロナウイルス感染症の危機により対面授業に制約が生じたことから、掲示された講義資料に基づき受講生が独習することにより当該授業科目の受講と見なす、オンデマンド方式の授業を独立した授業形態と捉えるようになった。) しかしながら、manaba を活用することによりレポート提出管理、小テスト、出席管理ができるため、学生の理解度を確認することができる manaba の活用は有用である。

評価の視点 5※	履修登録に関するガイダンスやオリエンテーションなど適切な履修指導を実施している（オンラインも含む)。根拠資料→B4-69 履修登録に関するガイダンスやオリエンテーション実施要項,（オンラインの場合は Web サイトも可→別紙の備考に URL 記入）
評価の視点 6※	授業外学習に資する適切なフィードバックら、量的に適当な学習課題の提示 根拠資料→A4-43Web サイト シラバス
評価の視点 7	1 授業当たりの適切な学生数を設定し、運用している。

項目 (4) 4-4③授業形態（講義、実習、演習）によって、1 授業当たりの学生数を設定している場合、事例を回答してください。

≪回答≫

2023 年度の全学共通科目群の講義科目の科目編成表において、以下の記載があった。

「芸術学(書道入門)(書道中級)」では、「履修者制限あり（40 名程度)」

「芸術学(音楽AB)」では、「人数希望者が多い場合抽選あり」。

「自己・人間をみつめる(文章の書き方 AB)」では、「受講者数制限あり」の記載があった。

評価の視点 8	学習を活性化するための学習支援ツールや授業外学習（予習・復習）を奨励する取り組みを実施している。

★項目 (4) 4-4④学習支援ツールや授業外学習（予習・復習）を奨励する取り組みについて、根拠資料を用いて回答してください。

≪回答≫ **本委員会においては、当該事項に関わる取り組みを奨励することはなく、各担当教員の判断に委ねている。**	≪根拠資料≫ **50-C4-8：**

◆学生の学習を活性化し、効果的に教育を行うための措置について問題点があれば記述してください。

≪回答≫

なし

点検・評価項目 (6)	**4-6 学位授与方針に明示した学生の学習成果を適切に把握及び評価しているか。**
評価の視点 1※ **【評価要件〇】**	学位課程の分野の特性に応じた学修成果を測定するための指標（特に専門的な職業との関連性が強いものにあっては、当該職業を担うのに必要な能力の修得状況を適切に把握できるもの。）を設定している。 ＊成果指標は定量的指標、定性的指標を複数組み合わせて設定することが望ましい。 根拠資料→B4-70 学習成果の測定指標と測定方法及び測定結果
評価の視点 2※ **【評価要件〇】**	学生の学修成果の測定方法を開発している。 ≪学修成果の測定方法例≫ ・アセスメント・テスト ・ルーブリックを活用した測定 ・学修成果の測定を目的とした学生調査 ・卒業生、就職先への意見聴取 根拠資料→B4-70 学習成果の測定指標と測定方法及び測定結果

★項目 (6) 4-6①全学部・学科、研究科・専攻で共通設定している「DP に示す学習成果（能力や資質)」「学生アンケートや調査」以外で、部局独自として設定している学習成果の測定をするための指標と、その測定方法をすべて記述してください。

≪回答≫ **東松山キャンパス運営委員会において指標なし。**	≪根拠資料≫ **50-C4-9：**

★項目 (6) 4-6②学習成果を測定した結果（共通設定と、独自設定含む）について代表的事例を回答してください。また、全ての測定結果を根拠資料として提出してください。

≪回答≫ **東松山キャンパス運営委員会において該当する事例なし。**	≪根拠資料≫ **50-C4-10：**

★学習成果の指標と測定方法に関する課題や長所などを記述してください。

≪回答≫

なし	
★学習成果の測定結果の分析方法に関して課題や長所などを記述してください。	
≪回答≫ なし	
点検・評価項目(7)	4-7 教育課程及びその内容、方法の適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取組を行っているか。
評価の視点 1 ※ 【評価要件〇】	適切な根拠(資料、情報)に基づく定期的な点検・評価を実施している。 ・学習成果の測定結果の適切な活用 根拠資料→B2-51 2023 年度点検・評価シート B2-52 会議録（または準ずるメール記録）:（開催日）2023 年度自己点検・評価について
評価の視点 2 【評価要件〇】	点検・評価結果に基づく改善・向上に向けた取組みを行っている。
項目(7) 4-7①学習成果測定の実績と、実際の測定結果にもとづいた教育改善の取り組み状況を、具体的に回答してください。 他大学事例： ・論文やプレゼンテーションなど成果報告の機会が広がり、その開催方法も交流や競争性を取り入れた場へと展開している。 ・「学生の授業に関する調査」結果に対して、授業担当者はコメントや具体的な改善策を公表している。 ・英語に関する学習成果把握の取り組みとして、全学年対象の英語アチーブメントテストの結果を英語スコア管理システムにより一元的に管理し FD 部会でデータの検証を行い英語教育の改善に取り組んでいる。 ・論文中間発表や論文審査基準の結果をもとに、カリキュラムとその内容、授業方法を自己点検し、特に博士論文は、助成制度を設けているため学術的水準の維持、向上に繋げている。	
≪回答≫ なし	≪根拠資料≫ 50-C4-11：
項目(7) 4-7②改善・向上に向けてこれまでに取り組んだこと、現在取り組んでいることがあれば、具体的に回答してください。2019 年度以降の取り組みも含めて記述してください。	
≪回答≫ なし	≪根拠資料≫ 50-C4-12：

Ⅱ現状を踏まえ、長所・特色として特記する事項（工夫していること）を、意図した成果（目標）を明確にして記述してください。
※注：前年度の取り組みに限らず、過去から継続している事項も含める

長所・特色	

Ⅲ今回の点検・評価の結果、明らかになった新たな問題点や課題について、今後の方針や計画を含めて記述してください。
※注：複数記述可、ただし 2023 年度事業計画としてアクションプランを策定しているものは除く

問題点・課題	

Ⅳ【改善計画（事業計画）】

カテゴリ	計画番号	B 票No. or 開始年度	改善計画（アクションプラン）	内容（改善を要すると判断した根拠）	目標の評価指標	目標値	年度計画
②	1	2022-4Ⅲ-1(4-7)	学修成果の測定結果の活用の検討	①学生調査(認識/行動調査，授業認識調査等)、既存の客観データ(キャリア関連プログラム参加率，就職率，履修データ等)の総合的分析とその継続化。②分	学修成果に関する各種調査結果の分析、分析結果にもとづく教育改善の実行。具体的に、2021 年度卒業生における各学部学科の 1,2 年次に履修可能な必修科目の成績について 4 年間での卒業可否者の対比を行い、卒業に影響を与えるキ	A(100%)：キー科目不合格者の当該科目修得モティベーション強化 B(80%)：キー科目不合格者に対する履修指導実施	2022 末結果：D 2023：C 2024：C 2025：B 2026：B 2027：A

				析結果を踏まえた教育改善計画の策定と実施。	一科目を探査し、特定する。当該科目の不合格者に対する早期の学習指導が有用と看取されるため、その実施の如何。	C(50%)：特定し得たキー科目における卒業に与える影響の程度の評価 D(20%)：卒業に影響を与えるキー科目探査、特定	2028：A

V【内部質保証委員会による点検・評価】

2022 年度＜所見＞
全学共通科目、外国語科目等の到達目標（AG）が設定されており、その学習成果の測定を行う必要があるが、全学共通科目、外国語科目等は各学科のカリキュラムに組み込まれているため、学修成果の測定結果の把握と活用方法は学科主導で実施していくことになる。当該委員会においては、DP の積み上げ(能力の積算)や学生行動調査の測定結果（データ供給は情報センター）を把握したうえ、各教員の授業内容や方法の改善に活かす必要がある。 COVID-19 への対応・対策として、様々な感染防止対策に取り組まれている様子が分かり、評価できる。しかし、サーマルカメラの設置については東松山キャンパスでも２か所に設置されているので、確認されたい。
2023 年度＜所見＞
全学共通科目は幅広い分野をカバーしながらも，大学の学びに必要なスキルや思考力などに関する到達目標が設定できていることは評価できる。自己評価を B にしている理由はおそらく全学共通科目と各学部専門科目との接続の関係もあり，学習成果を評価しにくいという側面があるからではないかと推察する。 事例として挙げられている各種の授業は教員が工夫を行いつつ，学生の学びの向上にも貢献しているので，全学共通科目全体での底上げや改善などが今後の課題のようにも思えた。もちろん改善計画にあるようにキー科目を用いて学習成果を測ろうとしていることは高く評価する。 なお、項目 4-1①の設問で、東松山キャンパス運営委員会は指標なし、と記述されているが事業計画のアクションプランにも「学修成果の測定結果の活用の検討」、「①既存の客観データの総合的分析とその継続化。②分析結果を踏まえた教育改善計画」と明記されているので、「卒業に影響を与えるキー科目」の成果の把握について測定方法、評価指標が設定されていると思われるため、次年度は明記されることが望まれる。 本学の教養教育と位置付けられる全学共通科目、外国語科目は全学部に影響を与える教育であるが、「全学共通科目はほとんどが選択科目であるため、時間割上空き時間に履修する等効率性のみを重視すれば体系性のない科目選択につながり、豊かな教養という全学共通科目を学ぶことによる到達目標と齟齬を生じることが懸念される。」と分析されているが、これを「課題」と捉えて全学的な検討に繋がれば大きな改善事項として期待できるのではないか。本シートのⅢ問題点・課題に記述はないのだが、「声を挙げる」ことから着手いただくことが望まれる。 全学共通科目、保健体育科目、そして外国語科目ごとに教育内容、教育方法、評価方法など丁寧に設定されているが、学修成果の測定や結果の活用などは各学科とさらに協力して進めることが期待される。 学生の主体的な授業参加を今後もより増やしていくための具体的な方法があれば、全学共通科目や保健体育科目を担当する教員への働きかけや協力要請を求めていくことも必要かと思われる。

◆評価の基準について

※各基準の「自己評価」は、各部局の判断に委ねられます。なお、青字部分は、本学としての解釈です。

S	大学基準に照らして極めて良好な状態にあり、理念・目的（教育研究上の目的）を実現する取り組みが卓越した水準にある。 （評価の視点に対して、クリアしており、さらに向上させるための取り組みを行っている、または、他部局の参考となるような特色ある取り組みを行っている場合）
A	大学基準に照らして良好な状態にあり、理念・目的（教育研究上の目的）を実現する取り組みが概ね適切である。 （評価の視点に対して、クリアしている状況と判断する場合）
B	大学基準に照らして軽度な問題があり、理念・目的（教育研究上の目的）の実現に向けてさらなる努力が求められる。
C	大学基準に照らして重度な問題があり、理念・目的（教育研究上の目的）の実現に向けて抜本的な改善が求められる。

＜注＞「大学基準」は大学基準協会「大学評価ハンドブック」を参照のこと。

解説にある「大学は云々・・・」については、学部、研究科等の現状に置き換える。

基準４教育課程・学習成果

【大学基準】

大学は、自ら掲げる理念・目的を実現するために、学位授与方針及び教育課程の編成・実施方針を定め、公表しなければならない。また、教育課程の編成・実施方針に則して、十分な教育上の成果を上げるための教育内容を備えた体系的な教育課程を編成するとともに、効果的な教育を行うための様々な措置を講じ、学位授与を適切に行わなければならない。さらに、学位授与方針に示した学習成果の修得状況を把握し評価しなければならない。

（解説）

大学は、その理念・目的を実現するために、授与する学位ごとに、修得すべき知識、技能、態度など当該学位にふさわしい学習成果を示した学位授与方針を定め、公表しなければならない。また、学位授与方針に基づき、教育課程の体系、教育内容、教育課程を構成する授業科目区分、授業形態等を示した教育課程の編成・実施方針を定め、公表しなければならない。

大学は、学士課程、修士課程、博士課程及び大学院の専門職学位課程のいずれの学位課程にあっても、法令の定めに加え、自ら定める教育課程の編成・実施方針に基づいて授業科目を適切に開設し、教育課程を体系的に編成しなければならない。その際、学術の動向や、グローバル化、情報活用の多様化その他の社会の変化・要請等に留意しつつ、それぞれの学位課程における教育研究上の目的や学習成果の修得のためにふさわしい授業科目を適切に開設する必要がある。また、学問の体系などを考慮するとともに、各授業科目を大学教育の一環として適切に組合せ、順次性に配慮し効果的に編成する必要がある。

大学は、教育課程の編成・実施方針に基づき、授業内外における学生の学習を活性化し、効果的に教育を行うための様々な措置を講じなければならない。その一環として、適切なシラバスを作成するとともに履修指導を適切に行い、また、授業や研究指導の計画に基づいて教育研究指導を行うほか、授業形態や授業内容、授業方法に工夫を凝らすなど、十分な措置を講ずることが必要である。

大学は、履修単位の認定方法に関して、いずれの学位課程においても、各授業科目の特徴や内容、授業形態等を考慮し、単位制度の趣旨に沿った措置を採ることが必要である。また、教育の質を保証するために、あらかじめ学生に明示した方法及び基準に則った厳格かつ適正な成績評価及び単位認定を経て、適切な責任体制及び手続によって学位授与を行わなければならない。

大学は、学位授与方針に示した知識、技能、態度等の学習成果を学生が修得したかどうかを把握し、評価することが必要である。そのために、学習成果を様々な観点から把握し評価する方法や指標を開発し、それらを適用する必要がある。

大学は、教育課程及びその内容、方法の適切性について定期的に点検・評価し、その結果を改善・向上に結びつける必要がある。その際、把握し、評価した学生の学習成果を適切に活用することが重要である。